

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・3・15)

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

指導者また選手として、主体性を持つ持たせる事が出来たらなと思いました。その為に考えている事、想う事を伝え合う機会、意見を交換する場面を設定出来たらなと感じました。

講習会ありがとうございました。指導者としての在り方を改めて考えさせられる有意義な時間でした。以前から体罰は指導力不足だという認識は持っていましたが、結果を残さなければいけない環境や閉鎖的な環境など、何故起こるのかについて考えを深めることが出来ました。この講習を受けた一員として、おかしいと思った事には声をあげられるように努めます。

指導する立場の人間は学び続ける必要があると改めて実感しました。新しい言葉も学ぶことができ、参加できて良かったです。ありがとうございました！

インテグリティの講習は何回か受けていますが、受ける度に考えがアップデートされていきます。指導者として、常に順風満帆ではなく、課題は必ずあります。そのときに、この内容を思い出すことで、道標になってくれています。

本日は お忙しいなか講話ありがとうございました。本日の講話は、体罰など負の面の抑止についてだけでなく、指導者としての在り方や、今後について考える事が出来ました。また、次回このような講話がありましたら、講義内の感想例にあった「体罰以外の指導方法を学ぶことが、体罰をしてはいけないことに繋がる」とあった意見に共感できたので、この件もしあるなら聞かせてほしいと思いました。改めて本日はありがとうございました。

多様な価値観を知る中で、他の競技の先生と意見交換ができたことは、とてもいい時間となりました。指導者として、どういう方法で熱く接していくのかが、社会が変わる中でスポーツが生き残れるのか、スポーツの価値を問われているのだと思います。必要悪として捉えている人の多くが、同じ道を辿っているこの世界で、たまに自分を振り返り、学生にどう寄り添えるかを考えつつ、今後に活かしていきたいと思います。今日は、お忙しいところ、貴重な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

自分の価値観を見つめ直すきっかけになりました。体罰・暴言をせずに、指導する方法を指導者が学び続けなければならないと感じました。また、私自身もプロ選手を育てようとしているわけではないので、将来に生きる指導をしていこうと思いました。

本日はありがとうございました。今回気づいたことは、自分は思い込みが強いということでした。自分は経験を積んでいるので自信を持って指導できる。正解を知っているという思い込みから間違った指導をしていたように思います。気づかせていただきありがとうございました。

今回の講義を受けて私はすごく納得できました。今までの考えとしては体罰に対して、意味があると考えているがしないというスタンスでした。それは今までの事を美化していたからだと気付いた事が自分に刺さりました。今後は体罰、暴言に頼らない指導者になる事を目指します。本日はありがとうございました。

今回の講習を受けて、体罰を肯定する人は洗脳されている人と感じました。テレビでも見ましたが、強いチームを率いているこの監督の言うこと(やっている事)は絶対。みたいに親が洗脳されていました。そうやって子供に浴びせられる暴言も見て見ぬふりに繋がっているのだと感じました。個人的に指導者として、プレーヤーズセンターの考え方をもち、選手に携わる人みんな選手の将来を考え、指導に当ることで体罰を無くしていけたらと思います。

今日はありがとうございました。前半にあった、昔の常識が今は非常識という言葉に共感しました。昔は体罰もよしとされている時代。今まで、どれだけ選手の心や体を傷つけてしまっていたのかと考えるとゾッとします。指導者も常にアップデートしながら、選手に寄り添い、三輪先生のような心の師を目指したいと思います。また、今日の研修で、ペアを30代の指導者のしっかりとした考え方に刺激を受け、とてもよかったです。10回目となる最後の研修お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

今日は貴重なお話をしてくださり、ありがとうございます。今現在教員として学校に勤めていて、今日のお話はとても心に刺さりました。体罰、暴言はいけないという認識はありながらも今年の自分の言動を振り返ると、反省しかありません。ただ本気で何かを伝えたい、届いて欲しいと感じた時に強い言葉、態度で伝える以外の術がないこと力不足です。ただ生徒の言動を振り返ってあの時どう伝えればよかったのかなどの正解を見つけきれないまま、日にちだけが過ぎもやもやとしたまま過ごしています。苦しいです。ただ今日の研修が何かのキッカケになりそうな気がしています。今日はありがとうございました。

今回の研修を通し、改めて、自らがどういうコーチになりたいのか、子どもたちのためにどうあるべきなのかを考えることができた。私個人としては、これまでハンドボールにかかわってきた中で、特に暴力、暴言等にぶつかったことはないが、指導者から「お前はこのチームで一番がっかりした」と言われたことは今もいやな思い出として残っている。すごくお世話になった指導者であったが、結局はこのような言葉は消えない。逆に印象に残っている指導者はほとんどいないが、チームの先輩等で共通するのは、プレーだけでなく私の様子を見てくれている、意見を言ってくれるという存在である。子どもたちからもそう思われる指導者でありたいと思っている。また、本研修で「プレーヤーズセンター」という言葉がすごく印象に残っている。私の所属するチームは、指導者、保護者、地域が選手を囲んで、皆で見ている状況を構築できていると思っている。地域に開かれ、周りから励まされ、のびのびと子供たちが成長していく背景には、指導者の中で、身に着けさせたいプレーとそれに伴うトレーニングが明確にあることがとても重要であると思う。それがあって、指導者全員が多くを求めすぎず、かといって甘くならない、目的が明確な指導ができるようになる。これを地域で段階的に各カテゴリーで示すことができれば、自らの経験を押し付けるようなことも起きないのではないかと。「勇気で防ぐ」を忘れずに、子どもたちが生き生きするスポーツにしていきたい。

今回の講演は指導者だけではなく、教職員向けにもしていただけたらと思いました。私は若い頃バスケットボールに打ち込んでいましたが、いつも笑顔で一生懸命、バスケ専門で怒鳴ることがないけど芯が熱い女性の先生が顧問で、体罰や暴言をうけずに過ごしました。私達はいつも一回戦負けの弱小中学校で、私たちの学校が対戦相手だと、不戦勝と呼ばれるくらい弱かったです笑。ですが、今の私の大切な部分が育ったのは中学時代だと思っています。技術も低く、目立つ子でもない私をキャプテンにしてくれ、全体をまとめるというスキルが身についたこと、練習前には顧問と2人でメニューを考えた経験(信頼されている、特別だから頑張らなきゃ！と自己肯定感が高まりました)、個性豊かなチームメイトの主張を最大限認め合う振る舞い…それらを育ててくれたのが中学生時代の部活動です。そんな生徒が何

十人も、いやそれ以上いるんです。プロの選手になった人は1人もいませんが、私達が今、体罰や暴力がなくとも子供を引きつけ、対話を通して熱く関わり合える大人へと成長し、社会を担う人間になっていることは、とても大きな意味があるのではないのでしょうか。部活動を通して“1人の人間”を育ててくれた先生は残念ながら他界してしまいましたが今でもチームメイトとは繋がっています。みな、それぞれの分野で活躍しています。私は決して力で生徒を押さえつけません。今日の講演を聞いてほしい先生が他にいました。顔が浮かびました。その先生の事も大好きです。体罰をなくしたい、しないでほしい、私も声をあげていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

今日インテグリティの講習を受けて感じたことは、自分が受けてきた指導を正しかったと思ってしまっただけではよくないことだと感じた。それを今の生徒にそのまま反映しては絶対にいけないと感じた。生徒にかけてあげる言葉もしっかりと考えて発言するようにしていきたい。今の生徒たちのレベルに合わせて指導に携わっていきたくて考えた。

私自身、体罰は見た事しかなくて、暴言はある程度受けながら選手を続けてきました。暴言に屈せず、理不尽な事に立ち向かうことでメンタルが強くなったという恩恵もあります。勝つことを目的とする場合、暴言なしで本当に上までいけるのか疑問に思います。例えば、〇〇〇〇の〇〇先生は暴言を当たり前に使います。失敗すれば坂を走らせるという間接的な体罰(一発ビンタされた方が楽じゃないかと私は思います。)も普通です。それでも先生の元でハンドを学びたいという学生は沢山いて、事実、その教え子が活躍しています。それは先生と選手、その親など関わる全ての人の間の信頼関係でされていることなので、とやかくは言わないし、言えないけど、今の時代にあった指導方法ではないし、プレーヤーズセンターでもないので、古いやり方以外でトップを目指すのってすごく難しいのでは？と考えています。今のチームで、選手が、チームがどう在るべきかを常に考えるようにしていますが、やはり指導者の影響力というのはとても大きいと感じていて、なかなか大変です(笑)。今後、私が指導者の立場になる事があれば、必ず今日の研修を思い返して指導にあたります。やっぱりスポーツは勝つから面白いと思うので、クラス担任も教科担任も塾講師も兼任できる指導者が理想です。その為に様々な指導者の指導法を学ぶ必要があると思いました。今日のディスカッション形式の研修、とても楽しく有意義でした。ありがとうございました。

冒頭の暴言による被害の4割が小学生という現実にも驚きました。小学生の競技会は健全育成を目的とした取り組みでありながら、最初の入口で4割が被害にあっていることを踏まえ、私の関わっている中学生に対しては今日の研修を通して指導者として、役割と責任を果たしていきたいと感じました。基本的にスポーツを通して、競技力向上や人格形成を育成し人生において豊かなスポーツライフを築くために不可欠と考えてきました。その中ですぐに意識していきたいことは、生徒とのかかわりのなかで人として、指導者として正しいことを正しく行う。体罰、暴言をやらない、頼らないことが自分(家族)を守り、仲間(同僚)を守り、選手を守る(育てる)ことにつながる。そして、目の前の選手が次世代を育てる立場となることを信じて指導していきたいと強く感じました。

講習会ご苦労様でした。